

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 7 年 4 月 21 日(2025.4.21)

【公開番号】特開 2024-67141(P2024-67141A)
【公開日】令和 6 年 5 月 17 日(2024.5.17)
【年通号数】公開公報(特許)2024-090
【出願番号】特願 2022-176973(P2022-176973)
【国際特許分類】
A 6 3 F 7/02(2006.01)
【F I】
A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

10

【手続補正書】
【提出日】令和 7 年 4 月 11 日(2025.4.11)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

20

演算回路、リードメモリ、リードライトメモリ、乱数値を発生させる乱数回路、及び多項式演算回路を有して遊技の進行を制御する遊技制御手段と、
前記リードメモリは、遊技の進行に関する制御プログラムが記憶された第 1 記憶手段と、
遊技の進行に関与しない制御プログラムが記憶された第 2 記憶手段とで構成され、
前記リードライトメモリは、前記第 1 記憶手段が読み書きする第 3 記憶手段と、前記第 2
記憶手段が読み書きする第 4 記憶手段とで構成され、
前記第 2 記憶手段に記憶されたエラー検出プログラムにより検出された異常に応じて前記
第 4 記憶手段のエラー要因格納領域に、発生したエラー要因をセットし、前記第 2 記憶手
段に記憶されたエラークリアプログラムにより第 4 記憶手段の前記エラー要因格納領域に
セットされたエラー要因がクリアされ、
前記エラー要因格納領域にセットされたエラー要因には、前記エラークリアプログラムに
よりクリアされるエラー要因とクリアされないエラー要因とがあり、
前記第 3 記憶手段、及び前記第 4 記憶手段は、作業領域とスタック領域で構成され、
前記エラー要因格納領域は、前記第 4 記憶手段の作業領域に含まれ、
前記エラー検出プログラムには、前記多項式演算回路を使用して前記リードライトメモリ
の特定アドレス範囲内の演算を行い、演算結果と、前記リードライトメモリの前記特定ア
ドレス範囲以外の演算結果格納領域に記憶された演算結果との照合を行う範囲照合手段が
含まれ、
前記第 1 記憶手段に記憶されたプログラムから前記第 2 記憶手段に記憶されたプログラム
を呼び出すための特定コール命令があり、
前記範囲照合手段は、前記第 4 記憶手段のスタック領域を使用するとともに、前記第 1 記
憶手段のプログラムから前記特定コール命令で呼び出されることを特徴とする遊技機。

30

40

【手続補正 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 0 8
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 0 8】

50

本発明の第 1 の実施態様に係る発明は、下記の構成を有する。

演算回路（例えば、メイン CPU 2101）、リードメモリ（例えば、メイン ROM 2102）、リードライトメモリ（例えば、メイン RAM 2103）、乱数値を発生させる乱数回路（例えば、乱数回路 2110、乱数回路 2150）、及び多項式演算回路（例えば、CRC 回路（巡回冗長検査（CRC 16）回路））を有して遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、主制御基板 2071）と、

前記リードメモリは、遊技の進行に関する制御プログラムが記憶された第 1 記憶手段（例えば、使用領域内 ROM エリア）と、遊技の進行に関与しない制御プログラムが記憶された第 2 記憶手段（例えば、使用領域外 ROM エリア）とで構成され、

前記リードライトメモリは、前記第 1 記憶手段が読み書きする第 3 記憶手段（例えば、使用領域内 RAM エリア）と、前記第 2 記憶手段が読み書きする第 4 記憶手段（例えば、使用領域外 RAM エリア）とで構成され、

前記第 2 記憶手段に記憶されたエラー検出プログラムにより検出された異常に応じて前記第 4 記憶手段のエラー要因格納領域（例えば、「使用領域外エラーフラグ」、「遊技復帰不可能エラーフラグ」）に、発生したエラー要因をセットし、前記第 2 記憶手段に記憶されたエラークリアプログラム（例えば、図 192 に示した使用領域外エラー要因クリア処理（使用領域外））により第 4 記憶手段の前記エラー要因格納領域にセットされたエラー要因がクリアされ、

前記エラー要因格納領域にセットされたエラー要因には、前記エラークリアプログラムによりクリアされるエラー要因（例えば、「使用領域外エラーフラグ」にセットされたエラー要因）とクリアされないエラー要因（例えば、「遊技復帰不可能エラーフラグ」にセットされたエラー要因）とがあり、

前記第 3 記憶手段、及び前記第 4 記憶手段は、作業領域（例えば、使用領域内作業領域、使用領域外作業領域）とスタック領域（例えば、使用領域内スタック領域、使用領域外スタック領域）で構成され、

前記エラー要因格納領域は、前記第 4 記憶手段の作業領域に含まれ、

前記エラー検出プログラムには、前記多項式演算回路を使用して前記リードライトメモリの特定アドレス範囲内（例えば、メイン RAM 2103 の所定領域）の演算を行い、演算結果と、前記リードライトメモリの前記特定アドレス範囲以外の演算結果格納領域（例えば、CRC 値格納領域 2103e）に記憶された演算結果との照合を行う範囲照合手段（例えば、図 172 に示す CRC 検査処理（使用領域外））を実行するメイン CPU 2101）が含まれ、

前記第 1 記憶手段に記憶されたプログラムから前記第 2 記憶手段に記憶されたプログラムを呼び出すための特定コール命令（例えば、CALL EX）があり、

前記範囲照合手段は、前記第 4 記憶手段のスタック領域を使用するとともに、前記第 1 記憶手段のプログラムから前記特定コール命令で呼び出されることを特徴とする遊技機。

10

20

30

40

50